

一般社団法人栃木県バスケットボール協会
2019年度 第4回理事会議事録

日時: 2019年9月17日(火)

会場: 文星芸術大学附属高校研修室

出席:(理事)15名 阿部泰紀、上野秀夫、小曾戸和彦、片桐晃、遠藤嘉津敏、高橋哲夫、福田悦男
直井秀幸、菊地宜秀、渡辺諭、益子基久、阿久津宏一、佐々木清美、日向野剛
山田将樹

欠席:(理事)5名 鈴木克美、新村雅司、佐藤智信、日向野信行、前原延之
(監事)2名 井上尉央、荻美紀

1 あいさつ

阿部会長: 経験したことのない災害があり、被災した方々に謹んでお見舞い申し上げます。
茨城国体では、少年女子が健闘し3位となった。協会の総力を挙げて推進したジュニア育成プロジェクトの成果である。
本日も慎重審議願う。

2 報告事項

(1)茨城国体視察(強化部)

少年男子

- 宮崎県と対戦した。3Q迄は接っていたが、4Qで離された。
- 優勝・準優勝以外のチームは、力が拮抗している。

少年女子

- 2回戦から出場し、山口県に2ゴール差で勝利、準々決勝では佐賀県と対戦しシュートがよく入り快勝した。
- 準決勝では、愛知県と対戦し3位となり、天皇杯・皇后杯に得点を獲得して貢献した。

成年男子

- 今後の強化に向けて視察してきた。選抜を組むチームと実業団所属のチーム編成があり、決勝は実業団チーム同士、3位は選抜チームとなった。
- 普段から同じメンバーで練習している実業団チームの方が総合力は上か。

視察考察

少年男子

- 選手12名をどう生かして使っていくかが課題。スタート5人だけでは戦えない。チームの特徴をどう作るのか。
- フィニッシュまでペネトレイトできる選手の育成、ユーロステップの習得、インサイド・アウトの展開

少年女子

- U12から発掘・育成・強化の成果の表れである。国体3位のレベルなら継続的な育成・強化で狙える可能性はある。
- 今後、スカウティングの重要性、フィジカル面の育成が課題である。

成年男子

- 選手のスカウトが急務。Bリーグの引退選手、実業団の選手等(ふるさと制度)
- 3年かけてチームを育成する必要性(粘り強さ・泥臭さ)。戦術面の熟成。
- 学生が主体では限界があるか。

総括(上野副会長)

- 少年種別については、継続的に発掘・育成・強化を進めなければ、勝てる状況は作れない。
- 今後は、選手選抜の方法やチーム編成の在り方、個人技術や戦術の習得など、栃木国体までにどこまで手厚くできるかが課題となる。少年種別には、難しさもあるがチャンスもある。
- 成年はチーム編成・メンバー確保が重要、それをどう集め、練習会をどうするかという大変な課題もある。

(2)各種大会報告

高体連: 10/26~11/4(5日間)までウインターカップ県予選が行われ11/3・4はケーブルTVで放送。

(3)その他の報告

ア 強化部より

- 11/10(日)に足南高で、U15北関東合同強化会が行われる。強化部では、男子27名・女子29名の選手を選び、ゲームをとおしてU15候補選手を選んでいきたい。

イ 天皇杯・皇后杯2次ラウンドの競技役員について(競技部)

- 11/30・12/1に2次ラウンドが開催される。競技役員については、ゲーム数が少ないので、競技部とTO・スタッツ委員会にお願いする。協力いただける方は事務局まで連絡願う。

ウ 審判委員会より

- 9/22にS級審査会があり赤羽が推薦され次年度からS級となる予定である。来年度より、本県の上級審判員はS級7名、A級10名となる。

エ 指導者養成委員会より

- 10/20・11/26にリフレッシュ講習会を行う。内容は、インテグリティ研修と「プレイヤーセンターズなコーチング」について行い、リフレッシュポイントは2ポイントとなる。
- 11/30・12/7に今年度第1回D級コーチ養成講習会を行う。
- 1月には第2回D級講習会、2月にはC級コーチ講習会を実施する予定である。

オ アンダーカテゴリー部会報告

①U12部会

- 11/9・10にリーグ戦を行うことになっているが、台風の影響により4地区が予選リーグを中止か延期としている。また、決勝トーナメント最終日の会場は黒羽体育館となった。
- 関東大会の予算が削減され、今年度は東京で2日間の日程で行われる。
- 全国大会の日程が、男子3/28・29、女子3/30・31に変更となった。
- U12関東DCが12/14・15に行われるが、参加選手を10/26のU12練習会より男女4名を決める。
- ルールの変更により試合時間が伸びてくる。県では、最終日の試合時間を10分長くして行う。

カ 3×3委員会より

- FIBA3×3Final2019開催記念「宇都宮市長杯」RoundoⅡが9/28(土)にFKDインターパーク店特設会場で行われた。男女上位2チームが11/2(土)・3(日)のFinal Roundoへ出場する。
- 9/29(日)に同じ会場で、第6回U18日本選手権東日本エリア栃木県予選会と2019年度U15栃木県大会が行われた。U18の優勝チームは11/16に東京で開催される東日本エリア大会へ出場する。
- 11/2・3にバンバ市民広場特設会場でFIBA3×3Final2019が開催され、前座として宇都宮市長杯が行われる。
- JBAより3×3の正式名称が「スリーエックススリー」になったと通知された。
- 東京オリンピック3×3競技TO選考の結果TOに遠藤が、スタッツに高橋・松本・本庄・宮田が選出された。
- TOについては、11/2・3のファイナルで研修会が行われ、遠藤と予備で3名が参加する予定。
- スタッツについては、ワークショップが12月から始まり4名が参加する。

キ 2020年度D-fundの申請について(事務局)

- 未提出の連盟は、大至急次年度の計画を提出してほしい。JBA締切は10月末。

ク 賛助会の中間報告について(事務局)

- 10/15現在、個人会員78名、団体会員5団体、通帳残高¥107,604となっている。

ケ JBA全国専務理事連絡会報告(9/28)

①スポーツ団体ガバナンスコードについて

- スポーツ庁は8月27日にスポーツ団体が適切な組織運営を行うための原則・規範として、一般スポーツ団体向けガバナンスコードを策定した。(栃バ協も含まれる)
- JBAでは、来年9月以降に地方協会への本ガバナンスコードの遵守状況に関する自己説明及び公表について通知する予定である。

②JBAの事業年度変更について

- JBAは、FIBAの事業年度に合わせるため、2020年度から事業年度を7～6月に変更する。
- 地方協会は変更する必要はない。

③JBAの中央競技団体ガバナンスコード関連規定の改定について

- 基本規程と役員候補者の選考に関する規程の改定を行った。

④全国U15選手権について

- 第1回大会を、2020年12月26日～29日(4日間)に開催する。
- 出場チーム数は、47都道府県+5チームとする予定。
- +5チームの選出については検討中。

⑤インテグリティ関連報告

- 分析ⅰ：試合中におけるコーチの暴力的行為・暴言は、過去と比較して大きく改善されている。
- 分析ⅱ：インテグリティ案件テクニカルファウルは、改善され100試合に1件となっている。
今後、この数値を比較値とするが、数値を0にする必要がある。
- 分析ⅲ：U12は、審判がコントロールした割合が高く、指導者への啓発をより進める必要がある。
- 分析ⅳ：全国大会の方が割合が高く、特にインターハイが高い。
- 総括：試合中におけるコーチの暴力的行為・暴言は、過去と比較して少なくなっている。
- 今後の方向性として、「見える化」の継続・拡大、啓発活動の推進が重要である。

コ BREX関係で報告

- レギュラーシーズン開幕、2勝2敗、今年度の入場者数の目標は平均4200名。
- 2019年6月決算
 - 平均入場者数は4004名で過去最高
 - ほぼ全部門で過去最高益を達成
 - 49勝11敗でチーム史上最高成績を達成
- 県ミニバスケット大会の記念ウェアを販売中、12/15まで申込受付する。総売り上げの5%を還元する。

サ その他:第22回Wリーグについて、2021年1月9日(宇都宮)・10日(小山)開催の内定があった。

カードは、JX 対 富士通である。

3 審議事項(議長:会長)

定足数について：理事総数20名、内15名出席で本会議は成立する。

議事録署名人：U12部会 阿久津宏一 BREX 山田将樹 氏にお願いする。

(1) 協会優秀選手表彰について(中体連)

- 中体連から今年度の優秀選手表彰候補者(男女30名)が推薦された。

- 候補者の条件は、中学3年間で活躍し、県内高校に進学希望する者となっているが、県外に移籍した選手も含まれている。
- 県外に移籍した選手の取り扱いを含めて、優秀選手表彰者の承認を願う。

—承認される(条件付き)—

- 今年度限り、県外に移籍した選手も表彰する。
- 来年度については、U15部会で優秀選手表彰のルールについて検討する。(県外移籍、高校進学、活動実績の評価基準等)

(2) 協会優秀選手表彰について(高体連)

- 昨年までは、国体選手(U18)を表彰していたが、今年度から少年種別がU16となるので、高体連に表彰をどうするのか、廃止も含めて検討を依頼してきた。
- 高体連では検討の結果、結論が出なかったため、協会での審議を依頼してきた。
- 廃止も含めて、高校生の表彰を今後どうするのか審議願う。

—以下とおり承認される—

- 高体連には、高校3年間の活動を通して、優秀選手を推薦してもらう。
- 来年度以降の表彰については、高体連において基準を検討する。

(3) その他

ア 茨城国体少年種別選手の新年会招待について

- 例年新年会には、全国大会ベスト4入賞チームを招待している。茨城国体で3位となった少年女子チームを招待するかどうか審議願う。

—以下のとおり承認される—

- チームとしてスタッフ・選手に招待状を出す。
- 選手の参加については任意とし、保護者には案内状を送り、保護者同伴での参加をお願いする。
- 保護者の参加に対しては、参加費を徴収する。

イ 国体選手に対する特別表彰について(事務局)

- 国体に入賞した国体選手に対して、特別表彰してもよいのではないかと審議願う。

—以下の通り承認され、次回の理事会へ持ち越し審議することで承認される—

- この場で審議といっても内容が整理されていないので、幹部会で表彰規程(案)を作る。
- 12月の理事会に諮り審議する。

4 その他(特になし)

5 あいさつ

上野副会長:長時間にわたる慎重審議に感謝する。